

アクティブ・ラーニング ノ ススメ in かがわ

アクティブ・ラーニングで 授業を変えよう！

- 1 アクティブ・ラーニングって…なに？
- 2 なぜ、アクティブ・ラーニングなの？
- 3 授業をどのように変えればいいのか？



Q1 アクティブ・ラーニングって…なに？



A1

自ら課題を発見し、その解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習のことです。

PISAなどの国際調査によると、日本は学習意欲や自己肯定感が低く、香川県は全国学力・学習状況調査におけるこの項目で、全国の中で低い結果となっています。そのため、主体的・協働的に学ぶ学習（アクティブ・ラーニング）の充実が必要です。

◆Q1-1 講義形式の知識伝達型の方が、知識・技能が身に付くのではないですか？

知識・技能を一方向的に伝達しただけでは、身に付いたとは言えません。確かな学力とするためには、知識・技能を活用して定着させたり、体験を通して知識を身に付けたりするなどの工夫が必要です。そのためには、アクティブ・ラーニングが効果的です。

◆Q1-2 アクティブ・ラーニングは、どんな効果があるのですか？

主体的・協働的に学ぶ学習やそのための指導方法は、知識・技能を定着させる上でも、また、子どもたちの学習意欲を高める上でも効果的であることが、これまでの実践の成果からも指摘されています。

教員ではなく、児童生徒が中心になって言語活動や体験的な学習を行う授業への転換によって、より一層の効果が期待できます。



◆Q1-3 どんな学習を目指していけばいいのですか？

ある事柄を知っているだけでなく、実社会や実生活の中で知識・技能を活用しながら、自ら課題を発見し、その解決に向けて主体的・協働的に探究し、成果等を表現していく学習が求められています。

Q2 なぜ、アクティブ・ラーニングなの？



A2

「どのように学ぶか」という、学びの質や深まりを重視することが必要だからです。

中教審諮問※1では、次の3つのことが必要とされており、学習指導要領には、内容だけでなく方法や評価についてふれられています。

- ①「何を教えるか」という知識の質や量の改善
- ②「どのように学ぶか」という、学びの質や深まりを重視
- ③「どのような力が身に付いたか」に関する学習評価の在り方

◆Q2-1 学びの質や深まりを重視することで、子どもたちにはどのような力が育まれるのですか？

新しい時代を生きる上で必要な資質・能力です。変化の激しい社会を生きていくためには、何事にも主体的に取り組もうとする意欲や多様性を尊重する態度、他者と協働するためのリーダーシップやチームワーク、思いやりなどの豊かな人間性を身に付けることが求められています。

◆Q2-2 そのような力を子どもたちに身に付けさせるために、どのような教育改革が進められているのですか？



「高大接続」改革※2があげられます。教育改革における最大の課題でありながら実現が困難であった「高大接続」改革を現実のものにするための方策として、現在、高等学校教育、大学教育及びそれらを接続する大学入学者選抜の一体的改革が進められています。

◆Q2-3 「高大接続」改革と小・中学校教育とは、関わりがあるのですか？

大きく関わっています。これからの教育においては、初等中等教育から高等教育を通じて、「生きる力」「確かな学力」を子どもたちに確実に育成することが求められています。小・中学校段階における取組が高等学校や大学段階へと生かされるよう、小・中学校教育においても、より一層、学びの質や深まりを重視することが必要となります。

※1 中央教育審議会「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問）」（平成26年11月20日）

※2 中央教育審議会「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について ～すべての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせるために～（答申）」（平成26年12月22日）

Q3 授業をどのように変えればいいのか？



A3

学習の主体を、教師から児童生徒に転換していくことです。

国内外の学力調査では、判断の根拠や理由を示しながら自分の考えを述べることについて課題があることや、自己肯定感や学習意欲、社会参画の意識等が国際的に見て低いことなどが指摘されており、子どもの自信を育み能力を引き出すことが求められています。

◆Q3-1 学習の主体が児童生徒になる授業とは、どんな授業ですか？

児童生徒が自ら課題をもち、仲間とともに考えを練りあったり創り上げたりする授業だといえます。

例えば、現行の学習指導要領でも大切にされている言語活動を充実させた授業や、体験的な学習を取り入れた授業のことです。

◆Q3-2 「アクティブ」という言葉を、どう捉えればよいですか？

ここでいう「アクティブ」とは、単に活動的になるのではなく、「能動的」に学ぶということです。したがって、児童生徒が課題の発見・解決に向けて、仲間と考えたり判断したりしていくために、教師の話を「能動的」に聞く場面も、活動的には見えませんが「アクティブ」と言えるでしょう。

◆Q3-3 アクティブ・ラーニングによる授業をするときに、気を付けたいことはありますか？

身に付けさせたい力を明確にし、学習場面に応じた適切な指導の下、児童生徒が能動的に学ぶことが大切です。また、アクティブ・ラーニングという手段が目的化したり、特定の型どおりの指導で形骸化したりしないようにするといいいですね。

アクティブ・ラーニングの参考資料を香川県教育センターWebサイトに掲載しておりますのでご参照ください。また、研究についてのご相談等がありましたら、香川県教育センター教育研究課までご連絡ください。



〒761-8031 香川県高松市郷東町587-1
TEL 087-813-0931 FAX 087-881-3270
<http://www.kagawa-edu.jp/educ/htdocs/>



平成27年6月